

老いたウエルテルの悩み

池田 隆

薬を毎朝飲む時に一瞬頭を過ぎる。「なぜ、これを飲むのだろうか」と。血圧やコレステロールを下げる薬と血液をサラサラにする薬である。十数年前に狭心症を患い、冠動脈に四本のステントを入れるカテーテル治療を行った。そのときは心臓以外の器官は健全だったし、人生まだやりたい事、やらねばならぬ事が多く、もっと生き続けたかった。

その願いは多くの方々のお蔭で叶えられた。父が七十歳頃に同じ心臓病で亡くなったことを思うと、まずはカテーテルという画期的な新しい医療技術を開発確立した関係者に感謝。治療後に定期的な検診を行い、適切な薬剤を与えてくれた医療医薬の関係者や、費用面で健康保険制度を支える一般の方々にも深く頭を下げたい。

現在は年相応に心身の衰えがあるものの、医療以外の面では他人様に直接的な世話をさほど掛けずに日常生活を送っている。やりたい事、やるべき事、やる事はほぼやり終えた。

惰性は自身の美学に反する。さて今から何を始めるか。いや無理して何かを探す要があるのだろうか。もう死んでも良い。しかし自死は遺族の気持ちを考えると自分勝手だ。老いたウエルテルの悩みは続く。

高齢化社会を迎え、国家は社会保障費の急激な増大に苦慮している。しかし人権至上主義を国是として掲げている以上、「あまり長生きしてくれるなよ」とは言い出せない。具合よく老人の重症化率を高めてくれるコロナ・ウイルスに対しても、高齢者優先のワクチン接種政策を行わざるを得ない。

「亡くなった夫のもとへ早く行きたい」と口頃呟いていたお婆さんが、「三回目のワクチンが打てた」と喜んでいいる。人間の気持ちは人それぞれで、揺れ動く複雑なものだ。だが以前にわが家で飼っていた老いた愛猫は重篤を自ら悟り、突然に姿を晦ました。家人総出で自宅や近所を必死に探したが徒労だった。このような死に方が自然界の摂理に適っている気がする。

枯葉は音も立てずに落ちる。老兵もそっと世を去りたいものだ。